

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは分かちあいの心  
RI 会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
Rotary Shares



見詰めよう四つのテスト  
富津中央 RC 会長 大網庄一郎

2007～2008

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2050 第28回例会 2008. 1. 31 薄曇

点 鐘 : 大網庄一郎 会長  
進 行 : 小野恒靖 SAA  
ソング : 手に手つないで

1地区1名、最大7日間、米山より補助金25万円  
があります。招待日の4ヶ月前に米山奨学会に  
申請して下さい。

### 会長挨拶

大網庄一郎 会長

皆さんこんばんは。早いもので1月も今日で終わり  
です。今年は株安と政局の混乱でスタートしましたが、  
早く落ち着いて欲しいものです。

今日は新年夜間例会と言うことで、アルコールも  
用意してありますので、親睦を深めていただきたい  
と思います。

よろしく申し上げます。

### 幹事報告

原田雅式 幹事

- 第31回ライラセミナー参加のお願い  
日時:平成20年2月22～24日 2泊3日  
場所:船橋市立一ノ宮少年自然の家  
各ロータリークラブ1名以上の出席、青少年1名  
推薦  
当クラブは参加できないため、参加費用1名分  
の寄付をしたいと思います。(18,000円)
- 「米山学友ホームカミング制度」について  
海外で活躍する米山学友を日本に招待し、地区  
内ロータリーアンに、その活躍ぶりを披露してい  
ただく。

### ニコニコ BOX

佐藤信泰 親睦副委員長

大網庄一郎 1月も無事終わりました  
原田 雅式 下期もよろしくお願ひします  
佐藤 信泰 大網丸、下期も又頑張りましよう  
今夜も飲める喜びに感謝して  
小野 恒靖 " " " "  
刈込 碩弥 挨拶の拡大写真を頂いて  
小生にとっては貴重な写真です  
千葉 一利 一寸雑収入がありました  
榎本 守男 昨日雑収入がありました  
☆三枝 一雄 結婚祝を頂いて  
☆>1,000円 合計 10,000円

### 出席報告

原田雅式 幹事

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	19	13	6		68.42%
前回	19	17	2		89.47%

〒293-0042 富津市小久保2868  
さざ波館  
Sazanami-kan  
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,  
Zip code 293-0042  
Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



## 新年会

進行:佐藤信泰 親睦副委員長



### 薪ストーブ考

石渡 鋼 会員

わが家のメイン暖房器は薪ストーブである。十数年前設置して以来、冬12月より3月半ばころまで使用するのだが、今年は近年にない寒さで煙の絶えることがない。

ゆらゆらゆれる炎、暖炉の前でテレビを見ながらブランデーなどちびり〃〃、傍らで美人妻が新聞越しに「あなた、おかわりは？」・・・映画のワンシーン・・・と気取るつもりで設置したのだが、「思惑と何とかは向こうから外れる」の例え通りなかなか設計に沿わない部分が多い。

しかしことストーブ本体に関しては期待以上の働きをしてくれている。特に電気、灯油の値上がり著しい昨今、タダに近いどころか邪魔扱いられている山の本々、廃材は処分料を払って処理する時代である。詳しくいうと我が家のL形の LDK 約28帖くらいの場所で朝外気温1度するとき、無加温で室内11～12℃のところ就寝前に径20cm長さ45cmの薪(小丸太)を1本入れておけば朝溶けるように消えて室温15から16℃、そこに新たに2、3本投入する

と20℃くらいまでに上がるのだ。しかも音も無く。ガス、石油、電気と違い立ち上がりの遅いのが輻射熱の欠点であるが、残熱性と熱の柔らかさは捨てがたいものがある。

その他懸念されるのはメンテナンスだが、灰の除去は週一回 2 リットルくらい、煙突掃除は年1回程度、乾燥の良い木は煙もほとんど出ないが、良くないものは煙は勿論出るし、タールが耐熱ガラスこびり付き揺らめく炎が見えなくなってしまう、がこれは高温で燃焼すればきれいになるのだ。また温度のコントロールはレバーハンドルの操作で空気量を0から100まで調整する。0はちょうど炭焼き状態で長時間発熱してくれるし炎がゆらめく状態となる。また木の種類によって発熱量は違う。くぬぎ、なら、マテバ椎、ケヤキ等の硬木は長持ちするが、松、杉、梅、の用材は着火し易いが火持ちは悪い、桧はこれらに比べ火付きが悪いので、他の理由と合わせて、用材としてトップたる由縁かも。蛇足ではあるがこの火を付ける作業にコツがあり昔の「生風呂」時代の火吹竹が役立ち、又ノスタルジアがますのだ。

多少の知識によるとこいつはオーストラリア製で北米、特にシアトル、バンクーバーあたりの家庭用とのことで彼の地では石油セントラルヒーティング、プラス飾りを兼ねて使用している模様で、多様なデザイン、機能をそなえたものがある。また歴史が古いだけに防火上の安全基準が徹底しているとのこと。また燃料には木屑を圧縮した人工丸太が市販されている。最大3000Calくらいの発熱と聞いている。

もし石油が無くなれば原子力、風、太陽光よりも身近な燃料、それは樹木である。いまから四～五十年前の山里の暮らしは米と薪炭で維持できていた。それがである、いまや捨てられた里山は荒れ放題、木は伸び放題で巨大なブロッコリー状に集落に覆いかぶさり、日差しを遮り人を追い出して行くのだ。酸素を供給し簡単に再生可能な木々であるが、もはや育ち過ぎて老人の手には負えない状況になっているのだ。

いま外は数年ぶりの大雪が降り続けている。時折重みに耐えかねた竹が、杉が「バキーン」と悲鳴をあげている。なんとかしろ・・・と。